

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



れいひ 礼肥の施用



- 収穫を終えたモモ樹の重要事項は、やがて迎える厳しい冬への準備です。このため9月になると樹は一時的に根を伸ばし、夏季に消耗した体力を回復するように養分吸収を盛んに行ないます。
- そのタイミングで農家は「礼肥（または、お礼肥）」として肥料を施用し、樹の養分吸収が順調に行えるように補助します。「礼肥」は収穫の感謝の意味も含んだ呼び方であり、モモ栽培における基本技術の一つです。
- 礼肥は年間窒素施肥量の1～2割に相当する肥料を8月下旬から9月上旬に施用します。鶏ふんが安価な上に窒素の効きが早いため使いやすく、100～150kg/10a 施用されています。
- ただし、樹勢が強く、新梢伸長が続いている樹では、貯蔵養分の消耗や花芽、葉芽の充実不良を起こすので礼肥は控えて下さい。

表 モモ成木における時期別施肥量(kg/10a)

施肥時期	窒素	りん酸	カリ	苦土石灰
9月上旬(礼肥)	3	4	3	
10月上旬				80
10月下旬(基肥)	11	6	9	
計	14	10	12	

県農作物施肥指導基準



草生栽培種子の播種



- 乗用式草刈り機の普及に伴い、草生栽培園が急速に広まり、モモ園における草生栽培園の比率は概ね8割以上と推定されます。
- 多くは雑草による草生栽培ですが、この他にライムギなどの草種を用いると刈草による有機物補給量が増加し、土づくり効果はさらに向上します。
- 9～10月はまとまった降水量があり、草生栽培用草種の種子の発芽に適した時期です。
- 播種量はライムギで6～8kg/10a、ケンタッキーブルーグラス等のイネ科牧草で3～5kg/10a、白クローバーやヘアリーベッチ等のマメ科で2～4kg/10aが適量です。



写真 ライムギを利用したモモ草生栽培